

第1回 持続可能な航空燃料（SAF）の導入促進に向けた官民協議会 議事要旨

○日時 令和4年4月22日（金）12：30～14：30

○場所 経済産業省別館11階1111会議室

○議題

- ①事務局（資源エネルギー庁／国土交通省）からの説明
- ②一般財団法人 運輸総合研究所からの説明
- ③構成員からの取組説明
- ④自由討議

○議事概要

- ・冒頭、細田 健一 経済産業副大臣、中山 展宏 国土交通副大臣から、開会挨拶。
- ・事務局（資源エネルギー庁／国土交通省）から、資料2～4について説明。
- ・一般財団法人運輸総合研究所から、資料5について説明。
- ・各構成員から、資料6～16について説明した後、構成員と事務局間で意見交換。SAFの導入促進に向け、構成員から提示された主な論点は次の通り。
 - SAFの生産を拡大するためには、製造装置、原料貯蔵設備等への多額の投資が必要となるため、生産者への政策支援（大規模投資への補助、税制措置等）が重要。
 - SAFの生産者が投資計画を策定できる予見性、使用者の需要喚起に繋がる施策や、使用負担軽減に資する政策支援が必要。
 - SAFの原料となる廃食油の一部が海外に輸出されている状況を踏まえ、重要な資源を国内に引き留める施策について、官民挙げた検討が必要。
 - SAFを量産するためには、国外原料も視野に入れ、安定的に原料を確保できるサプライチェーンの構築が必要。
 - SAFの利用には、供給側の取り組みに加え、空港における供給体制の整備も必要。
 - SAFの製造・混合等に向けた空港周辺の土地の活用が重要。